

# 瑞二だより

1学期終業式より  
(7月19日)

発行  
江戸川区立  
瑞江第二中学校  
校長 滝澤 清豪  
発行日7月19日  
東京都江戸川区  
瑞江4-54-1

みなさん、おはようございます。  
今日は1学期の終業式です。今年の夏季休業は例年よりも約2日間多い44日間です。2学期の初めは9月2日月曜日になります。皆さんにとって少しでも長い夏休みはとも良いことだと思いますが、おうちの方がストレスとならないように、計画的に、自主的に時間を過ごしていただい

さて、今日の話は、先週2年生が7月10日から2泊3日で喜多方市へ移動教室に行ってきました。今年で4回目となる喜多方市の移動教室は例年のように前半は雨も混じり、後半は晴天にも恵まれ、現地で病院に行ったり、おうちの方に迎えに来てもらったりする事はなく、全員がバスで戻ってくる事ができました。今日

は4年前に瑞江一中が何をどう考えて、喜多方移動教室を始めたのかお話ししたいと思います。

## 2年移動教室



今から4年前の令和2年度までの6年間は、瑞江一中の移動教室は林間学校と呼ばれ、栃木県大田原市に農家民泊2泊3日で夏休み中に実施していました。この瑞江一中の宿泊学習は、現在同様課題解決学習を基本としています。つまり、大田原市の歴史、産業などを深掘りして、現地の課題を発見してその解決方法を考え発表する学びをしていました。現在のような本格的なプレゼンテー

ションではありませんが、発表会も行っていました。私は着任後の3年間、大田原市宿泊学習の取組を2つの課題を感じました。

一つは、毎年同じことの繰り返しを繰り返して発展性に欠けること。二つ目は、3年生での修学旅行に繋がらない取組となっていることが挙げられます。先に断っておきますが、大田原市の取組が意味のないものと言っているわけではありません。農家の方々もとても良くしてくださりましたし、それを経験した先輩たちも農家さんとの別れには涙を流す人も珍しくはありません。貴重な経験でありました。

課題の一つ目は、毎年同じことを繰り返しているとは、帰校後の発表の内容です。大田原市の課題を見つけて、その改善策を考え発表するというアプローチをすると、ほ

ば全員の発表内容が、「大田原市の農家の課題は、後継者不足」になっってしまうのです。何故なら、農家の方々に「大田原市の課題は何ですか？」とダイレクトに質問する生徒たちに対する農家さんたちの答えが「後継者不足」が圧倒的に多いからです。それは、率直に農家さんの思いを答えたわけですから、質問と答えに間違えはないのです。しかし、毎年、来る生徒たちが皆「課題は何ですか」と聞けば毎年「後継者が居ないんだよ」となり、学校で発表する内容も毎年、「大田原市の農業の課題は後継者不足が挙げられます。その解決方法は…」と続き、実現性の薄い、自分の思いだけの解決方法を発表することに発展性をあまり感

じられません。農家さんにしてみれば、毎年同じ質問が来て「また同じ質問か」と感じるだろうし、受け入れの都合から、大田原市以外の周辺農家さんも協力しているのでも、「大田原市の課題は何ですか？」と安易に聞いてしまう生徒たちに対して、「家は大田原市ではないよ。」と答える農家さんも居ました。ちょっと配慮が足らなかったです。

## 喜多方フーメン



二つ目は、当時の宿泊学習のシステムから、学びの連続性が不足していることが挙げられます。現在の1年生の宿泊学習が行われているのは、江戸川区内で本校だけです。それも今年で2回目です。申し訳なかったのですが、現3年生は1年生の時が宿泊学習を経験していません。

です。クラス写真撮影もありません。我々教員も各農家を回り、活動の様子を見て廻ります(この教員の動きは現在と同じです)。

## 山形屋ホテル



整列し、初めて学年全員で同じ旅館またはホテルに宿泊するのです。何もかもが初めての経験でテンションが上がり、舞い上がり興奮冷めやらぬ様子があり、公共の場での他に迷惑を掛けない行動が取れない生徒がいました。当たり前のことです。その当時の3年生が悪いのではなく、そのための練習や経験をさせる機会を私たちが作っていなかったのです。

結局2泊3日を通してクラスや学年単位で動くことが無く、農家さんの家に宿泊する訳です。それ自体は悪い訳ではありませんが、翌年は最大の行事である「修学旅行」が待っています。その大きな宿泊学習に中学校生活でクラス・学年での行動の準備なしに初めて、そして最後に取り組むことになるのです。具体的に言うと、当時は「京都・奈良修学旅行」でしたから、初めて東京駅に集合し、たくさん通勤の人たちが通る地下下場に初めて学年生徒が並び、訪問先で初めて写真体形で

そして、4年前にあるA旅行業者の方から、「御校でSDGsに取り組まれていらっしゃいますか?」との提案がありました。また江戸川区が現在のようにSDGsに取り組む前に本校ではSDG(持続可能な開発のための教育)について取り組んでおり、それが後のSDGsに組み込まれた様な形となりました。その旅行業者は、その担当者の方が、中学校で取り組む宿泊学習について色々な提案をしてくれたりしていました。ただ単に、学校側の考えを実現する

だけで無く、担当者から提案して頂けるのでは中々ないことです。私は「瑞江二中に相応しい場所を提案してほしい。」と伝え、また、「業者選定は教職員に対して数社でプレゼンテーション(プロポーザル)を行い、学校全体で決めるから。」とも話しました。

結局3社がプレゼンを行い、3社とも学校規模、実施時期を考慮して喜多方市を提案してきました。すると、プレゼン内容はSDGsを盛り込んできたA社が教職員の支持を多数受け、向こう3年間はA社に任せることとなりました。3年間を過ぎた現在でも特に変える希望もなく、A社に任せるのが良いと続いています。

**農村体験**



コロナ禍の令和3年度の第1回目は、2度実施時期をずらして11月下旬に初雪が降る中実施しました。令和4年度は予定通り9月上旬の実施。修学旅行と一週間しか時期

がずれていないため、翌年からは7月中旬実施で落ち着いています。しかし、令和4・5・6年度と必ず雨に当たり、農作業が満足にできない年が続いています。理由は明白です。誰か大きな雨男がいるからです。誰だか知りませんが、学校管理者である校長として責任を多少感じています。多少です。何故なら、今年度の移動教室の天気予報が実施一週間ほど前からずっと雨マークだったため、私は実施時期が梅雨の時期だから良くないのと感じました。しかし、学校行事など学校のスケジュールを考慮するとこの時期が一番いいと判断しています。この令和の時代ならば、Chat GPTに聞いてみました。「福島県の喜多方市を訪問する一番いい時期はい



**食事会場(2か所)**



つですか?」と Chat GPTの答えは「7月中旬から9月上旬にかけてが一番良い季節です。」と答えました。瑞江二中では、既に3度も訪れていて全て雨模様でした。Aという答えているなら諦めがつかしました。これでもいい方なのだ。

現在では瑞江二中は、各学年で宿泊行事を行なっ

ています。1年生は入学間もない4月下旬に区内で瑞江二中だけが宿泊学習を実施しています。目的は友達づくりです。学校選択で本校を希望してくる生徒も大勢います。いろいろな小学校から集まった生徒たちがいち早く人間関係を作れるために実施する宿泊行事です。4月の忙しい時期に宿泊学習を行う学校なんて今ではありません。しかし、この行事が生徒たちの人間関係に大きく寄与することは、ベテランの教員は経験値として知っています。そして若手教員にとっても移動教室、修学旅行が初めての宿泊行事デビューとならぬよう、どの学年に居ても宿泊行事を経験できるようにしました。

2年生の移動教室、3年生の修学旅行の2つの特別活動は、本校の特色の一つである「生き抜く力をプレゼンテーション能力の育成から身につける」ための大きな学習機会です。

2年生は移動教室が終わって、これからがプレゼンテーションに繋がる

大切な取り組みに入ります。自分自身の課題・テーマを掲げ、その答えを他の人に伝えることが重要です。「調べ学習の報告会」にならないよう、自身でテーマを考え、主張をまとめ、他の人に伝えるよう表現してください。3年生は、9月中旬に長崎修学旅行に行つて来ますね。既に準備万端でしょう。素晴らしいプレゼンに結びつけられるよう、長崎でたくさんのご縁を学んでいきましょう。以上で私の話を終わります。

**会津鶴ヶ城会館**



**保護者の皆様へ**

日頃から本校の教育活動にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。お陰様で無事に1学期を終えることができました。

今学期は学校行事がたくさんあり、保護者の皆様にご縁をいただく機会も多く、瑞江二中の生徒たちの活動をご覧いただけたかと思ひます。

また、1年生宿泊、1・2年6組合同宿泊、2年生移動教室と宿泊行事も行われました。校長として3つの宿泊学習に参加しましたが、宿泊から帰校後の生徒たちの成長は目を見張るものがあります。日常を離れた環境の中で学ぶことは、学校教育だからこそできるものです。

9月には3年生の長崎修学旅行が行われます。楽しみながらもしっかり学び、自身の成長や仲間との交友を深めてほしいと願っています。

明日から夏季休業が始まります。本校は休業中の宿題を少なくしています。その間に長期休業でなくては経験できないことを学ばせてください。今学期、ありがとうございました。

校長 滝澤清豪